

# はくぶつかん おうちで博物館ぬりえ かいせつ

## 【008 ナウマンゾウ】

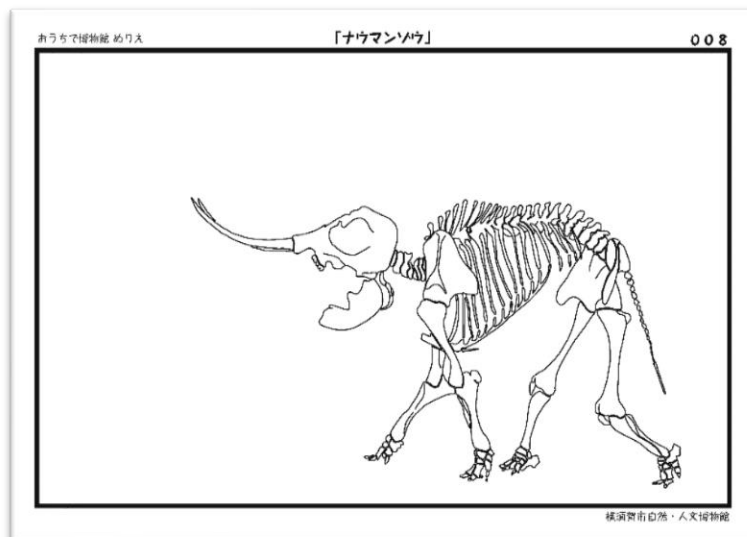
**解説**：ナウマンゾウは34万～2万年前の日本に生息していました。肩の高さは1.9～2.7メートル、アジアゾウやアフリカゾウよりもやや小型でした。34万年前の氷期で海面がさがり、日本と陸続きとなったユーラシア大陸からやってきました。あたたかい場所を好んでいたため、体毛はあまりおおくなかったと考えられています。

横須賀はナウマンゾウの化石がはじめて見つかった場所です。1867年、横須賀製鉄所（現在の米海軍横須賀基地）の建設のため、山をくずしたところナウマンゾウの下あご化石が見つかりました。この下あご化石は、ナウマンゾウの名前の由来となったドイツ人の地質学者エドムント・ナウマンによって研究されました。

**展示**：博物館では、自然館2階「ナウマンゾウ」のコーナーに全身骨格模型や、横須賀市でみつかった下あご化石のレプリカ、肩甲骨や上腕骨の実物化石が展示されています。

**対象**：小学校高学年（4～6年生）向け。

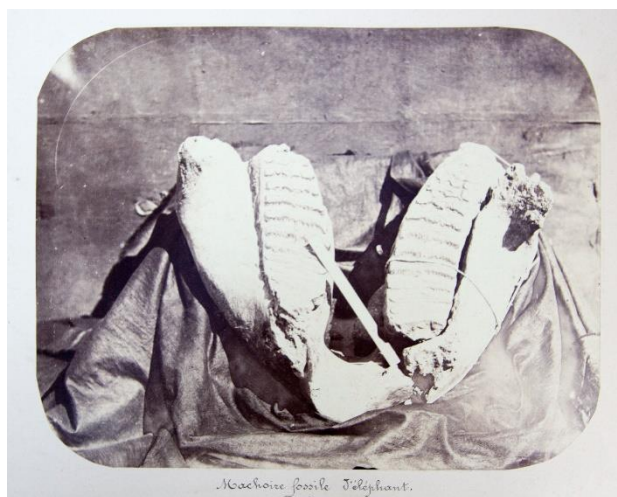
**コツ**：人の骨とくらべながら色をぬってみましょう。骨からナウマンゾウが生きていたときの様子を想像してかいてみましょう。



ぬりえ図案「ナウマンゾウ」（実際はA4判）



展示されているナウマンゾウ全身骨格模型



横須賀製鉄所建設中に発見されたナウマンゾウの下あご化石（ヴェルニー本家資料より）。